（昭和五年五月二十四日 第三種郵便物認可）

昭和十二年十一月十五日　千曲時報　第九十二號　（一）

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

編輯兼發行人　香山清和
發行所　長野縣上田市千曲
印刷所　長野縣上田市原町　中澤印刷所

近時身邊

田口喜一郎

正確なものゝ見方しつかりと足が地についたものゝ考へ方は恐らく誰でも必要とし求められてゐる事であるに相違ない。しかしある事物に對する如何なる見方がいかなる考へ方が正しいか否かを認識することは非常に難しいことゝ思ふ。個々の特殊の主觀がそれのみにて眞であることを斷ずることは出來ないし必ずしも又眞でないと斷ずることも出來ない。要は自らの主觀の如何に普通に對する特殊であるかを認めそれを普遍に包攝するにあると思ふ。

「本質は單に特殊に內在する一般たるのでなくこれを超えて理想化に由り捉へられる一般たるのである。平面的に種を包攝する類と異り立体的に自己を否定する特殊としての個別をなほ自己に包む處の一般が本質なのである」

（九月文藝春秋、田邊元、科學性の成立）

主觀は複雜な社會的環境によつて規定せられ且つ自然によつて分科され益々平面的特殊化に進展する。我々は濾過されないかゝる概念によつて――それは合理性のない實證性のない卽ち盲目的な自らの概念（獨斷（ドクマ））――事物を把へてゐる研究や理論に出會して迷はされる事であらう。それは遂に混亂以外何物でもない。

「自然科學者も哲學者も人間の行動がその思惟に及ぼす影響をこれまで全然不同に附してゐた。彼等は一方に自然を他方に思惟を知るのみである。だがその儘の自然のみではなく人間による自然の變化こそ人間の思惟の最も根本的な最も密接な基礎である。そして人間が自然を知る度合に比例して人智は生長する」（岩波版自然辨證法一〇二頁）

こゝに引用したエンゲルスの言葉はある回答をこの問題に與へて呉れる樣に思はれる。所謂蠶絲業に對する論文が果じてその把握がそこにあるか否かは重要なことであると思ふ。斯業の發展がその間違はれた理論の上に立脚されることは進歩と混亂以外何物もない。要はその哲學的立場に歸せらるべきであらう。

○

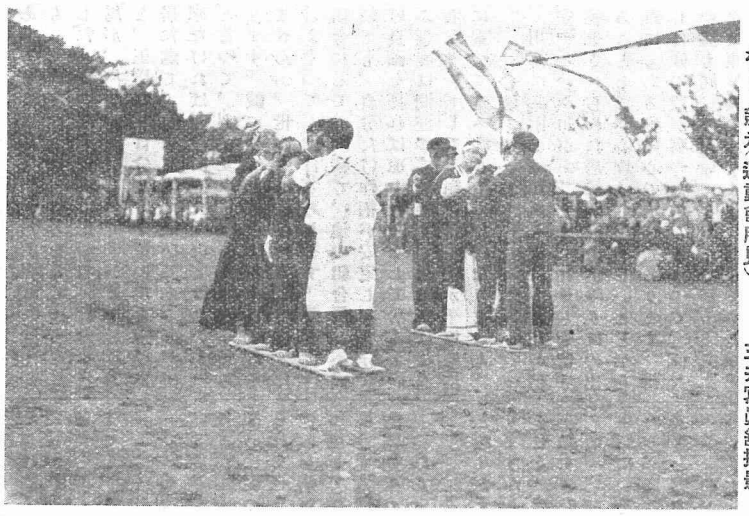
秋が更け逝く雨であつたのか昨夜はひどい雨と風であつたが今朝は忘れた樣に晴れて澄みきつた空には赤蜻蛉が飛び交つてゐた。相模の山々には眞白な雲がたゝずんで峯々を靜かにかくしてゐた。大空を渡る澄んだ風は旣に秋だ。松山の丘を歩いて來ると草むらでは蟲が鳴く。全く思ひことごとく新しくなる秋だ。

平常心是心と言ふ古語があるがさて持ち難きはこの心であると思ふ。生活と言ふ現實にあつて常にこの心を持ちたいと願ふが生活の激しい動きにともに激しく動いて行くことも出來ないのは如何にも淋しい事だとつくづく思はせられる。今日は風が吹き續くが野分の樣な氣がする。そう〳〵として吹き渡る大空には眞白な雲が飛び〳〵に涌いてどこからかくさむらにひそむこんなときに本當に自らの平常心を得て生活の指針を得られる樣に思ふ。

○

文化に對する視野のせまさは技術者の特質の樣に思はれてゐる。殊に農業技術者の視野の狹さは田邊元博士がその論文（昨年改造十月號、科學政策の矛盾）に指摘せられてゐる。蠶絲業の技術書ばかりがその向上性を示すものとは限らない。蠶絲業の社會性は益々認められなければならない時に於てあらゆる分野から充分な檢討を要すること切である。例へば吾々と全然關係なく見える映畫や演劇や音樂繪畫の樣な如きものにまでも相當の視野の廣さを求めて行く必要があるのではなからうか。そしてそれ等に正當な解釋を與へてゆかなければならないのではないだらうか。我國の農業は殊に封建制の濃いものであつて何百年かの間その批判性は奪はれてゐた。全國の二百萬の養蠶家の技術的リーダーシップは反動的な封建思想であるべき筈はない。もつと〳〵近代的文化とあらゆる方面よりの教養とに依つて啓蒙されてゆくところに技術の進歩が得られるのではあるまいか。誠に農は國家の大本なりとはいみじき言葉である。頃日ある雜誌に（科學ペン八月號、農耕者の科學性）なる隨筆を讀んで非常に興味深く覺えた。

「近時進歩した理論的農學を理論的に進歩した實態農業たらしむる爲め先づ農民の科學に對する敏感性を助長せしめねば農民は單に導かるゝものであつて自ら進むものでなくなるだらう。產業の進歩は產業人自らが自らの力で歩む處にあり內からの力にあるのであつて外からの指導力にあるのではない。指導力は丁度教育が個性の扉を開く鍵であり個性が歩み行く妥當なる方向を教へるものにすぎぬと同樣である」（山本義彥氏）

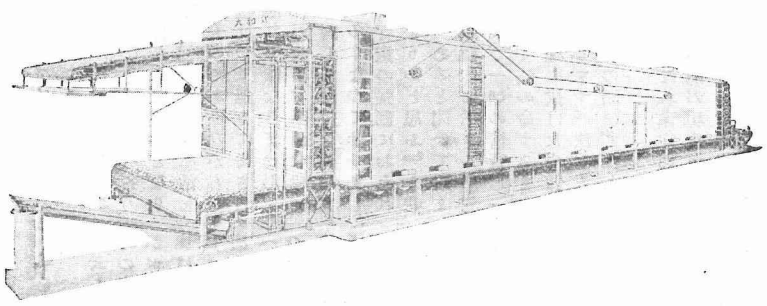


ボート競走（運動會所見）　三井寫眞舘撮影

現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

二五九七年代表型



【各種型錄贈呈】

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまとホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京市京橋區三丁目二番地
電話京橋（56）五三二〇番

講話ところ〴〵（十三）

―比喩　警句　諧謔集―

千葉　高　畠　生

◇國に盡す道

今や北支の戰雲急にして、皇軍の勞苦を想ふ時、私共は徒に午睡の夢を追ふべきではありません。畏くも　明治天皇の御製に

國を思ふ道に二つはなかりけり
いくさの庭に立つも立たぬも

と仰せられてあります。國家危急存亡の重大時局に當つて、戰線に立たぬ吾等は自分の立場を守つて家業に出精し、銃後の護りを完うするこそ、國に盡すの道であります。差當り本年の養蠶を滿作して出征兵士に後顧の憂なからしむべく一段の努力をしようではありませんか。

◇生の三角

アメリカの生物學者ヲールターと云ふ人の著書の中に『總べて生物の個性と云ふものは、遺傳、馴致、環境の三條件を各邊とする三角形から成立つて居る』と云ふことが書いてあります。斯う申上げたゞけでは、何のことかワケが分らないかも知れませんから、分り易い例をあげて說明致しませう。玆に素晴しい美人があるとする――この美人の美人たる所以を解剖してみると、先づ美人の系統に生れたことが分る。卽ち遺傳と云ふ條件であります。併しいくら容貌がよくても行儀作法が上品でなくては眞の美人と申すことは出來ません。之が馴致――訓練――教育と云ふ條件に相當致します。既に生れながらの容貌よしで、之に磨きをかけて修養を積んでもイマ一つ身なりを調へることがなければ、折角の美人が引立たないことになりません。之が環境――境遇と云ふ條件に相當するのです。卽ちこの絕世の美人は、遺傳と馴致と環境の三條件から成立つて居ることが分るではありませんか。昔から『瓜の蔓に茄子はならない』と云ふのは遺傳關係『氏より育ち』と云ふのは馴致關係『馬子にも裝束』と云ふのは環境關係の重要性を現した諺であります。……偖て蠶も生物である以上、ヲールターの生の三角の原理に從つて、遺傳――蠶種　馴致――飼育法　環境――飼料――桑の三條件に支配されるのでありまして、玆に良繭豐作の蠶があるとすれば　これは良き蠶種を掃立て之を合理的に飼育すると共に、適良なる桑葉を給與した綜合的の結果であることを忘れてはなりません。

◇千里の馬

むかし支那の或る偉い王樣のところへ千里の馬――一日に千里も走ることが出來ると云ふ駿馬を獻上しようとした者があります。これを聞いた王樣は『無用のものだ』と言つて、侍者をして斷らせました。侍者は不思議に思つて『折角の名馬が、何故御不用なのですか？』と言ふと、王樣は『自分だけ千里の馬を持つて居た處で、家來が之に從ひて來る事が出來なければ、役に立たないではないか』と言つて、到頭受取らなかつたさうであります。誠に考へさせられる話ではありませんか。世の中は共存同榮だ、自分だけよくつても駄目であります。養蠶實行組合にしても同樣で、他の組合員が不成績でも、自分だけ作柄が安定し、自分だけ良繭を穫れば涼しい顏をして居るといふ態度は間違つて居ます。先進者は後進者をリードして、組合員一統が千里の馬に乘つて走る樣心掛けねばなりません。

◇嫉　妬　心

川柳に『雨よ降れ風も吹け〳〵花の留守』といふ句があります。花見どき留守番をさせられた居候が、雨が降り風の出ることを願ふ心理は、淺ましいこと乍ら誰にもある嫉妬心の現れであります。併し自分の蠶が腐つたからといつて、他人の蠶も同樣の運命になるやう祈ると云ふ程根性の曲つた人は餘りありますまい。自分の失敗に鑑み、他人に同じ失敗をさせぬやう、組合員はお互に親切心を以て注意し合はねばなりません。

◇梢頭のトンボ

晩秋の或る日、成田詣での客を滿載した電車が、印幡湖畔を走つて居ると、窓外の景色を眺めて居た一人の客が、さも感にたへぬもの〻如く『さても千葉縣と云ふ處には、トンボが澤山居るワイ』と申したさうであります。これは丸坊主に摘み去られた桑園の梢頭に、ヨレ葉一枚づゝ着いて居るのを見て、トンボが止まつて居るものと見違へたからであります。トンボと見違へられる程濫採しては後年の災怖るべきものがありませう。一片のナンセンスとして笑ひ去ることは出來ません。

◇奥義と睫毛

……以上申上げましたことは、別段耳新しいこともなく、皆さん既に御存じの平凡の事柄のみであります。併し眞理は常に平凡の中にあることを忘れてはなりません。理心流といふ劍術の奥義を書いた書物の中に

奥義とはおのが睫毛の如くにて
近くにあれど知られざりけり

とあります。養蠶經營の秘訣―奥義―眞理は、どく手近の處にあるけれ共、之を氣付かないことが多いのであります。又氣付いても之を實行しなければ役に立ちません。この意味に於て、私の申上げた所をよく翫味して頂きたいと思ひます。

◇今日のつとめ

支那事變が蠶絲業に如何なる影響を及ぼすか――この問題に就ては觀點を異にするに從つて悲觀樂觀何れにも理由づけられませうが、私共は差當りソンナ問題に氣を病むよりも、損得を超越し、信仰に生きて勤勞する態度こそ、銃後の護を堅うする所以であらうと存じます。二宮尊德先生の歌に

來ん秋は雨か風かは知らねども
今日のつとめに田草とるなり

とあります。素より養蠶は營利事業でありますから、損得を無視する譯には參りません。殊に農家は經濟觀念に乏しいと非難する者がありますけれ共、私は寧ろソロバンを外に『今日のつとめ』として生業にいそしむ尊いものこそ農民の姿であり、又これあるが故に日本の蠶絲業の强さを感ずるものであります。

◇ドイツの商人魂

ベルリンに開催されたオリムピックの旅行者達が、土產物の買物をして一番愉快に思つたこと――と云ふよりも寧ろ驚歎させられたことは、ドイツの商人魂であつたさうであります。卽ち不正な商品やザツなものを外國人に賣つて　ドイツの品が粗惡であるとか、高いとかいふ非難を受ければ、ドイツの恥辱であると考へる、その商人魂に徹し切つた態度は、實に見上げたものださうであります。不正品や粗惡なものを賣らないのみならず又決して「暴利を貪らず、ドイツ自慢の優秀品は外國人になるべく安く提供してドイツ製品の信用を獲得しよう」といふのが、ドイツの商人魂なのであります。斯ういふ風に、我利々々の商人根性の些かもない、國民としての大乘的商人魂に徹してゐるのだから、正直なのは當然であります。だから勘定がよく分らぬやうな外國人達は、皆財布や蟇口を差出してその中から勝手に代金を取つて貰ひ、又電車やバスに乘つても、蟇口を出して料金を取つて貰ふが、それで一寸も間違ひは起らないさうであります。

飜つて我が國の實狀はどうでありませうか。商人根性といへば、ゴマ化し根性の別名になつて居る位であります。そして從來正直で純朴と稱せられて居た百姓も、近頃では掛引上手の商人根性となりなか〳〵スミに置けなくなりました。だから特約取引などに際して、買方と賣方とは、双方とも商人根性を以て相對し、虛々實々、互に鎬を削つて秘術を盡すものを見受けます。一体斯うなつたのは誰の罪か、兩者にそれ相應の言ひ分はありませうけれど、今はソンナ責任のなすり合ひをして居る秋ではありません。特約取引は賣買兩者の理解と德義に立脚しなければ、契約條項をドンナにした處で圓滿にゆくものではありません。私は日本の商人――特に蠶絲業者に對して　ドイツの商人魂の如き精神を鼓吹したいのであります。

◇法の活用

歌に

世の中は澄むと濁るで大違ひ
禍は德なり海豚は毒なり

とあります。天與の藥石も之を用ふることと不適當であれば毒となり、正宗の名刀も之を用ふるに人を得ざれば凶器となります。法も亦民を守り、人類共同生活を益すべく設けられたものでありながら、之が適用を誤れば、反つて無きにまさる害毒を招くことを忘れてはなりません。

近時養蠶實行組合の改組、產繭處理統制等に、繭絲業者に對して法規を適用すべき事項が、非常に多くなつて參りました。そこで養蠶家は官憲の强制におそれをなし『養蠶を止めようかと思ふ』と悲鳴をあげて居る者さへあると聞いて居ます。さなきだに傳統の觀念に活きる農村であります。法律々々で一切の情實、一切のしきたりを無視して法の命ずるまゝに强制せんとすれば、魂の拔けた形骸のみの組合となり勝であります。法、人を殺すとは斯くの如き場合の謂ひではありますまいか。

併し一面又、傳統に捉はれ保守に活きる農村人に對しては、眼前の現實に躊躇することなく、斯くすることが理想であると信ずる以上法規の命ずる所に從ひ、斷乎として舊弊を打破し、新生面を開拓するでなければ、所謂百年河淸を俟つものとなつていつ迄經つても改革の實が擧がるものではありません。

之を要するに實狀に卽し、緩急宜しきを得て、當業者の利益を確保し、本邦蠶絲業百年の大計を考へてやらなければなりません。卽ち謂ふ、法は死物なり、之を活かすは人に在りと。諸君の熟慮反省を望む所以であります。

◇愚かなる破壞と建設

……由來『愚かなる破壞と建設とは、愚かなる保守と現狀維持よりもその害毒甚し』との格言があります。米國の詩人ホルムスの言つた『新しきものを試みる最初の人となる勿れ、併し古きものを捨つる最後の人となる勿れ』の句と併せ味つて、そこに非常に考へさせられることがあります。近時蠶絲業界を吹きまくる統制の旋風に各種の試みが企てられつゝありますが、それ等の中には『愚かなる破壞と建設』でしかないものが、絕無とは保證出來ません。徒に流行の波に乘つて、前途の見透しもなく計畫することは後日に癌を殘すもので、股鑑遠からず××をみても分るではありませんか。

◇猿澤池畔の拍手

手を打てば鹿は逃げ出す鯉は寄る
女中ハイ〳〵猿澤の池

と云ふ歌があります。これは奈良猿澤池畔の宿屋に泊つた見物客が、何用あつてかポン〳〵と手を鳴らせば、春日神社の鹿は驚いて逃げ出すし、池の鯉は獨でも貰へることかと思つて集まつて來るし、宿の女中はハイ〳〵と返事しながら座敷へ御用伺ひに來ると云ふのです。客の打つ手の音は一つでも、之が響く方面は多樣であり、又聽く者の立場々々に依つてその意味が違つて聽かれるのは面白いではありませんか。客の手を打つたのは、果して何の目的のためだつたでせうか。

空腹の人が東京山の手線の電車に乘つて新宿から品川へ行く時「原宿」と云ふ驛員の呼聲は「ハラスク」と聞いて腹にこたへ「澁谷」では「シブ茶」と聞え、「恵比壽」と呼ばれてビールを思ひ出して唾を飲み「五反田」では「ゴハンダ」と聞いて腹の虫を暴れさし「大崎」では「オサケ」と聞いて喉を鳴らし遂に目をまはしたとか云ふ話であります。

私が今迄說く所、果して皆さんは何と聽かれたことでせうか。定めし立場々々に依つて色々の解釋を下されたことゝ存じますが私の眞意は、××××××を高調したい所にあるのですから、その點だけは誤解のないやうにして頂きたいと思ひます。

上田便り

菅平に初雪　上田地方十月八日の氣溫は十度迄下り菅平、烏帽子、上信高原に初雪が降つたが昨年より十四日早い。更に十七日夜から十八日朝にかけて菅平ホテル附近に一寸の積雪を見た。

日本一の大松茸　松茸の名産地上田市外鴻ノ巣から日本一の大松茸が採れた。富士山村の瀧澤茂吉（六五）さんが十月十四日採つた松茸は直徑一尺四寸　目方二百八十匁と百六十匁の二本、永年松茸を扱つてゐる茂吉さんもこれは生れて始めての大きなものだと驚いてゐる。

染織及工産展　上田市の秋を彩る商工會議所主催の工業生産品卽賣展覽會、市役所主催副業品展覽會、北信染織懇話會主催の第二回北信染織展覽會は十月十四十五、十六日の三日間合同して上田商工會議所樓上で開催され又長野縣染織試驗場では第九回染織展覽會を十四、十五兩日開催し、製作品並に生徒實習品卽賣、作業公開を行ひ更に番神祭もあり人出は非常なもので卽賣品の賣行も良好であつた。

溫電バスの市内乘入　溫電バス川西線別所溫泉、田澤溫泉、沓掛溫泉、西鹽田、室賀方面行は從來上田驛より發著してゐたが乘降客の便を計り十月十五日より市内原町商工會議所前より發著する事となつた。會議所前發車刻は左の如くである。（上田驛前發は之より約八分遲れる）

△田澤溫泉行　前六五二、八三〇、一〇〇三、一一二二、後一〇三、二三三四三二、六三二

△沓掛溫泉行　前七三二、九一三、一〇三二、後〇一三、一四二、三二二、五四二

△室賀行　前八一二、一一三三、後一五三、四二二、六四二

△別所溫泉行　前七三二、八一三、一〇〇三、一一二三、後〇五三、二二二四三二、五二三、六三三

△西鹽田行　前八五二、一〇四二、後一四二、四〇二、五五二（冬）、六四二（夏）

溫電川中島バスと連帶　上田溫電では十月十五日から川中島バスと連帶切符を發賣する事となつたが連絡待合場所は北天神町溫電荷扱所前で連帶切符販賣驛は北東線神科驛以北各驛、川西線上田原驛以南各驛で川中島バスの何處へでも通用する。川中島側よりは上山田、川中島、長野、戸隱、高府、大町の各驛より連帶となつてゐる。

上田物産大阪で好評　大阪高島屋の長野縣物産展覽會は十月十二日から十七日迄開催されたが上田の出品の内味噌、そば粉、絹沓下、くるみ羊羹等は出品早々に賣切れ農業美術品、絹紙、絹國旗、家具等も大好評で總計五百餘點中七割は賣切れてしまつたと云ふ。

熊谷飛行學校の傭員採用　熊谷飛行學校の傭員採用試驗は十月十九日上田市で行はれた受驗者百十八名に對し卅三名が採用決定され内八名が本校勤務、廿五名が上田分教場勤務となつた。

蠶種製造二割增　昭和十二年度上小蠶種製造家の生産狀況は十月二十日上田蠶取支所で統計を完成したが普通蠶種製造では越年二割增加、不越年一割增加であり之から推すと來年春蠶は大体二割の增掃となる見込である。

△製造實人員三百卅八戸△原蠶春期二一六戸、夏期二五戸△普通蠶春期平付け二一八戸、バラ一七戸△原蠶製造高越年三六六三六八蛾（前年三九一四一二蛾）不越年一二二八六四蛾（前年一二八三八〇蛾）△普通蠶種製造高越年四〇二一六三一瓦（前年三二一四二七二瓦）不越年六二四三七〇五瓦（前年五八七六一一二瓦）

當選市歌決定　上田市の懸賞募集に依る市歌は應募五百九十七篇中第一豫選會で七十二篇を選び島崎藤村氏に等位決定を依頼した結果一等から五等迄と選外佳作六篇を選定されて來たので市では十月廿八日委員會を開いて最後の決定を行つたが一等當選作曲は左の如く決定、作曲は帝都復興の歌の上一般市民の作曲家小松耕輔氏に依頼し高唱される事になる。

一、撩亂春の古城址に
忍ぶ眞田の跡
星霜人は移れども
義魂數多の志士を生む
あゝ眞田城下我上田

二、清涼夏の千曲邊に
並ぶ工場糸の館
爆音高く飛機の影
中部日本の空守る
おゝ天津港我上田

三、錦繡秋の集散地
染めて織なす絹の色
五穀豊に物産の
東信濃の市我上田
あゝ商工の高原に

四、凛冽冬キーの菅平
走るスポーツ所數知れず
舊蹟名子杖を曳く
接踵遊光の街我上田
おゝ觀光の街我上田

蠶試上田市場廿五周年記念祭　長野縣蠶業試驗場上田支場は創立廿五周年に相當するので十月廿六日より三日間に亘り盛大なる記念式典を行つた。廿六日は午前十一時より同場に於て廿五周年記念式典、永年勤續者表彰式、午後一時より蠶桑品評會褒賞授與式があり廿七日午前九時より物故者追悼會、交友會總會、谷中佐の事變講演、廿七、八日午前九時より午後四時迄蠶桑品評會、蠶絲副業品、家事手藝品及び參考品を場内に陳列し一般の觀覽に供した。

取引激減　上田商工會議所調査に依る本年上小八繭市場の春夏秋繭取引高を見ると（括弧内前年）

△春繭　一一〇一七貫（一二六〇七二貫）一五五五貫減、金額六八六五五錢（六六二八八一圓四〇錢）

△夏秋繭　一八六三七四貫（二四三七二五貫）七五三五一貫減、金額九二一八〇八圓七六錢（一二九〇六七一圓二二錢）三六八八六三二二錢減、平均四圓九五錢（五圓三〇錢）

△合計　二九七三九一貫（三六九七九七貫）七二四〇六貫減、金額一六〇八三六二圓〇八錢（一九五三五五三圓三八錢）三四五一九一圓三〇錢減、平均五圓四一錢（五圓二一八錢）

となり、以上の數字から見て春繭は前年以上の高値を見たが夏秋繭に入つてからは事變に依る濱表絲價の低落から打擊を蒙つてゐる事が伺はれる。尙上小八繭絲會社の夏秋繭取引高及貫平均相場は左の通りである。

△信濃二九八六二貫四圓八五錢△上田二九三〇五貫四圓九二錢△東北一〇九七〇貫五圓四錢△川西四三七五貫五圓一錢△田中一六二七〇貫四圓九一錢△大塚二一五五二貫五圓△丸子三六三四二貫四圓九五錢△依田窪三七六九五貫四圓九九錢

右に依ると數量二三％五減、金額二八％六減で此の減少は主に特約取引の侵入に依るものである。

菅平の開發　菅平、澁澤一帶の開發に乘出してゐる東京市大森區の土地成金田中孝氏は七月來三万圓を投じ竣工を急いでゐた大明神澤から澁澤に出る二十町を五間幅に、一里半に亘る須坂舊道を三間二尺幅にするドライブ山道開發工事は完成に近づきつゝある。大衆的なホテルとして七間半に六間半の二階建本館、三間半に四間の平屋食堂、二間半に三間の浴室等の棟上を完了スキーシーズン迄には新裝をこらすと云ふ。

スキー學校開設　縣スキー聯盟では昨年菅平に開設したスキー學校を本年も十二月廿五日から明春三月中旬迄長短二期に分けて菅平に開設するがその日割は次の如くである。

◇長期　第一回（十二月廿五―卅一日）第二回（一月一日―七日）第三回（一月八日―十四日）

◇短期　十二月廿九日―卅一日、一月二日―四日、五日―七日、八日―十日十五日―十七日、廿二日―廿四日、廿九日―卅一日

菅平スキー對策　上田溫電にては既に十月廿六日東京地方のスキーヤーから宿舍斡旋の申込があり早くも菅平スキー客誘引に大童であるが本年の計畫は事變の爲め團体客が減る事を豫想し主として家族スキー客の招致を計る事になつた。右は菅平は熟練者には猫岳、初歩者には大明神澤の如くスロープが豊富であるから一家中で來ても十二分に滿足が出來るからこう云ふ點を特に宣傳する方針に變更した。一方新鹿澤、草津、上林、澁、湯田中等と連絡を取るコースを造り之に指導標を新設する事になつた。又今年の宿泊料は物價高に依り民家一圓三十錢、營業者一圓八十錢と協定した。

毋蛾檢査良好　上田蠶取支所第四回九月中の毋蛾檢査成績は原蠶及び普通蠶に就て次の樣で昨年より向上を示してゐる

△原蠶越年檢査數九五九五六蛾、有毒歩合〇、一四　△原蠶不越年累計一二二八六四蛾、有毒歩合〇、〇〇五　△合計二一八八二〇蛾、有毒歩合〇、〇四　△普通蠶檢査數九七六五〇蛾、合格歩合八一％一五

スキーコース宣傳　スキーシーズンを迎へた上田、菅平、鹿澤の三スキー倶樂部では左の如きコースを掲げて大宣傳に乘出す事となつた。

一、根子岳登高　登高路六キロ、滑降路八キロ

二、四阿山登高　菅平―頂上八キロ、鳥居峠―頂上六キロ

三、菅平―上澁澤間（パノラマコース）第一コース八キロ、第二コース九キロ

四、鳥居峠―鹿澤間　鳥居峠―大塚山間四キロ、大塚山―鹿澤溫泉間四キロ

五、鹿澤―車坂間　鹿澤溫泉―籠塔下五キロ、籠塔下―車坂峠六キロ、車坂下―乙女小屋四キロ

六、上信山麓コース　高崇天狗小屋―田代―新鹿澤十キロ

母校ニュース

蒲生教授出張　蒲生教授は青森、新潟兩縣下に於ける養蠶實行組合指導者講習會の講師として十月二日より約一週間出張された。

學校應召者慰問の申合　本校關係より應召せる者が生ずるに至つたので之が慰問の爲め左の如き申合せをなし十月より實行する事となつた。然して評議員に教授、幹事に會計課長を選任した。

職員申合規約

一、本申合は應召職員、傭人及學生を後援するを以て目的とす。

一、本校職員は總て此の申合に加入するものとす。

三、本規約遂行の爲め評議員幹事若干名を置く。

四、加入者は隔月其の俸給の千分の五を醵金するものとす。但し場合に依り評議の上之を增減する事あるべ一。

五、醵金の使途は左の通りとす。

一、應召加入者の餞別　金武拾圓

二、應召傭人の餞別　金拾圓

三、應召學生の餞別　金五圓

四、應召者送旗調製壯行會費

五、家族慰問は其の事情を斟酌し評議決定す

六、醵金は郵便局に預入し會計課長に管理を委託す

談話會例會　二學期談話會は宮坂收、鷹野誠一兩氏が世話せらるゝ事となりその第一回例會を十月八日（金曜日）午後四時より特別教室に於て開催したが談話者及び題目は左の如くである。

一、ながかめむしの氷結溫度に就て　金澤　勇

一、プラクトンの簡單な採集と觀察　町田　博

國民精神總動員週間　十月十三日から十九日迄全國一齊に行はれた國民精神總動員强調週間に於て本校では次の如く國民朝禮の時間を行つた。即ち週間中は午前八時全校講堂に集合約二十分ラヂオを以て　一、音樂　二、國歌合唱　三、宮城遙拜　四、講話を行つた。尙第一日十三日には朝禮に引續き戊申詔書捧讀、校長訓示があり十七日（日曜日）は朝禮を缺き午前七時五十分より科野大宮神社に參拜し最終日十九日は朝禮後校長より訓示があつた。週間中の授業は十三日は二時間目より其他は午前八時廿分始業第二時間目より平常通りとした。

蠶絲學會に鷹野講師出席　十月十九日東京市麴町區有樂町蠶絲會館に擧行された蠶絲學會小集會に本校よりは製絲科鷹野講師が出席された。

細川豐氏應召さる　蠶絲化學井上教授實驗室勤務の副手兼講師細川豐氏（蠶一九）は國家の干城として應召される事になつたので〇月〇〇日正午より千曲會館に於て全職員集合同氏の壯行會を行ふ。校長の歡送の辭、細川氏の謝辭にて茶話會に入り校長發聲にて萬歲三唱して散會した。翌〇〇日午前十時卅六分上田驛發にて出發せらるゝので全校授業を中止し驛頭に見送つた。その御骨折を謝すると共に赫々たる武勳をたてゝ凱旋あらん事を祈る次第である。

田上忠義氏退職　本年四月以來蠶絲化學井上教授實驗室に副手として勤務せられし田上忠義氏（絲二〇）は今回農林省蠶絲局產繭課分室に榮轉せらるゝ事になり十月廿三日附退職された。

紡織職員對三年庭球試合　十月廿三日午後一時より職員コートに於て紡織科職員對紡織科三年の庭球試合を行ふ。學生よりの希望に依り職員組のベストメンバー小林湯原組を除き相方五組宛出場し左の戰績にて學生側が大勝した。

一回戰

職員		學生
野口、今井	3—2	阿久津、中田
香山、玉井	3—1	平林、小畠
櫻井、崎山	1—3	永井、白鳥
岡、中澤	3—1	高橋、小林（龍）
石倉、櫻井	1—3	伊藤、小林（九）
玉井、香山	1—3	小林（九）、柳澤

二回戰

職員		學生
野口、今井	0—3	永井、白鳥
香山、玉井	0—3	伊藤、小林（九）
岡、中澤	1—3	小林（九）、中田

纖維工業學會に香山助教授出席　十月廿四日名古屋市廣小路通朝日ビルに開催された纖維工業學會通俗講演會に本校よりは紡織科香山助教授が出席された。

美術展に本校出品者　上田毎日新聞社主催第四回美術展覽會は十月廿三日から五日間市公會堂に於て開催されたが審査員は日本畫荒井寬方氏、西洋畫倉田白羊氏、書道比田井天來氏、寫眞高桑勝雄氏彫塑石井鶴三氏、工藝倉田白羊氏にて日本畫五十六點中入選廿七點（外に特別出品一點）洋畫百四十七點中入選百四點（外に審査員出品四點）書道七十九點中六十九點入選（外に特別出品二點）寫眞四十五點中入選廿九點（外に特別出品八點）彫塑廿九點中入選十四點（外に特別出品三點）審査員出品　點）工藝入選五十一點であるがその內本校關係は左の如くである。

入選

寫眞（洞）　井上柳梧

仝（スキーヤー）　小口宗久

仝（菅平スケッチ）　仝

仝（舟遊び）　金藤正治

日本畫（雨中山水）　石倉新十郎

西洋畫（少女）　關谷英一

特別出品

書（靜觀自得）　針塚長太郎

日本畫（山村の朝）　井上柳梧

寫眞（四月の乘鞍）　茅野功

仝（直滑降）　仝

古平庄衛氏新任　横濱市吉野商店に勤務せられし古平庄衛氏（絲一九）は今回同店を退職、蠶に農林省（榮轉せられし田上忠義氏の後任として蠶絲化學井上教授實驗室に副手として十月廿六日より勤務せらるゝ事となつた。

植民講話　三年生の學科課程に無定時に課せられてゐる植民講話は十月廿六日の午後より廿七日の午前に掛けて第四教室に於て全國養蠶業組合聯合會々長、全國蠶種業組合聯合會々長、男爵稻田昌植氏に依り行はれた。

歐洲視察及オリムピック講話　稻田男爵の植民講話にて來校を機とし十月廿七日午後〇時十分より一時間に亘り千曲會館樓上に於て全校職員に對し歐洲視察及びオリムピックに關する講話があつた。

献金一括　母校より今回の事變に關し献金せるもの十月末日現在にて左の如し軍用機献納資金として職員百四十四圓四十錢、學生廿八圓四十錢、專交會十圓を九月廿八日附東京朝日新聞へ寄托した。在支陸海軍人軍屬警察官並其遺族等慰問金として金三十五圓四十錢を醵出し十月八日附を以つて內閣官房會計課へ送附した。出征軍人軍屬及在支警察官並其遺族等慰問金として全職員より金四十九圓六十八錢を十月廿六日文部省官房文書課へ送附した。去る十月十八日擧行せる第廿二回陸上運動會經費を節約し金五十圓也を在支在滿皇軍慰問並家族救護資金として十月廿八日東京日々新聞社に寄托した。

藤松利八氏新任　蠶に大東紡織株式會社を退職され八幡市の御自宅に歸伏中なりし藤松利八氏（紡一五）は十月廿八日附を以て紡織科に副手として勤務せらる事となつた。

教育勅語捧讀式　十月三十日午前八時より講堂に於て全校職員生徒集合教育勅語捧讀式擧行終つて生徒のみ退場、教職員に下賜されし勅語捧讀式があつた。

養蠶科三年生卒業製作題目

一、（一）貯桑給與に依る蠶体の生育、絹の生產量、產卵量、卵の成分、蛾の生命に及ぼす影響

（二）〇、五％可溶性澱粉及び葡萄糖を添食せる場合

（井上教授）原田哲郎　清水良一、塚田由次

一、桑葉の葉綠粒に關する二三の實驗　（遠藤教授）阿形一三

一、桑の細菌病に就て　（遠藤教授）內藤康三

一、豆科植物に於ける根瘤菌に就て　（遠藤教授）島田博

一、桑條の纖維に就て　（遠藤教授）若林康弘

一、蠶兒胃液の液溫と殺菌力に就て　（佐藤利教授）會田誠司

一、蚊取線香の煙の蠶兒に對する生理的影響に就て　（佐藤利教授）伊比寛

一、絕食蠶兒胃液の殺菌力に就て　（佐藤利教授）生天目久平

一、桑葉、空氣、水等に存在する敗血性細菌に就て　（佐藤利教授）長倉稔

一、桑葉含水量の多少と蠶兒胃液の殺菌力との關係　（佐藤利教授）武田恒久

一、連鎖狀球菌の分布に就て　（佐藤利教授）都筑正一

一、蠶諸形質の分化と營繭期との相關

（一）生殖巢の分化及體液水素イオン濃度の變化と營繭期　（佐藤春教授）市原政治、長谷川敏文

（二）生殖巢、絹絲腺及蠶體重の增減と營繭期　（佐藤春教授）松永義德、三原磊藏

一、日照不足桑の給桑の給與試驗　（蒲生教授）岡田量雄、兒玉貫八

一、多濕育と稚蠶用桑の熟度との關係試驗　（蒲生教授）市川信二、瀧澤七郎

一、誘蛾燈採集に依る櫟樹加害金龜虫科の季節的消長に就て　（倉澤教授）中島俊秋

一、柞蠶體液の水素イオン濃度に就て　（倉澤教授）松吉博隆

一、柞蠶體液の電氣傳導度に就て　（倉澤教授）中西全

一、柞蠶體液の粘度に就て　（倉澤教授）佐藤祐三

一、蛹期中の保護溫濕度に關する研究　（山口助教授）堀口友治

一、蠶卵の種々なる障害に對する抵抗力並に感受性　（山口助教授）水出巖

一、蠶卵胚子の成長に就て　（山口助教授）矢野進

一、卵黃の變化に就て　（山口助教授）中島健爾

一、各種刺戟に對する蠶卵胚子生命力と致死限界に於ける蠶卵より發生せる蠶兒の生活力に就て　（宮坂講師）中村繁

一、蠶蛆卵の抵抗力試驗　（宮坂講師）岡宮辰夫

校友會ニュース

懸賞論文募集　文藝部では明年三月發行の校友會雜誌第三十四號に掲載すべく十月一日附を以て懸賞論文を募集中であるがその題目は次の通り締切は明年一月末日である。

一、支那事變と本邦蠶絲業との關係を論ず

二、普通蠶種の國家管理に就て

三、蠶絲業統制に就て（全般又は一部）

四、繭格付取引に就て

五、非常時に於けるステープルファイバー

六、蠶絲科學又は纖維科學の自由研究

野球部山梨高工遠征　野球部は去る十月十日山梨高等工業學校へ遠征左のスコアにて惜しくも敗れた。

	上田	山梨
1	0	1
2	0	0
3	3	3
4	0	0
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	3
9	0	0
計	3	7

メンバー

上田（7 川黒、9 輪箕、2 捨武、6 原相、5 澤柳、1 水清、3 田岡、8 訪諏、4 田倉）

山梨（8 町田、1 五木田、5 清水、2 三井、4 林、3 阿部、6 賀志、9 栗原、7 篠原）

第廿二回陸上大運動會　恒例の第廿二回陸上大運動會は十月十七日擧行豫定の處雨天の爲め延期十八日午前九時より擧行された。例に依り養蠶科は壽司、汁粉團子等の食堂、菓子の賣店を開設し製絲科は眞綿、石鹼、縫絲、紡織科は縫絲、靴下、タオル、反物等の賣店を出し修己寮は支那西洋料理の食堂及び菓子の賣店を開いた。運動會は三科選手應援團の入場式より開始されたが今にも降り出しそうな曇天と寒さと云ふ惡コンデション加ふるに非常時局に房はしく經費節約慰問金寄附の爲め名物の前夜の街頭デモ、餘興等一切中止されたせいか觀衆は非常に少なかつた。然し百米に豫選を行つたのと時局とが反映してか近頃習慣の樣になつた對科競技の悶著も無く極めて順調に進行し養蠶科壓倒的成績を以つて大勝し終了時間も早く午後五時學校長の訓示に依り幕を閉ぢた。對科競技の成績を左に示す。

9、八〇〇米競走
1 村澤（蠶一）二分廿四秒八　2 生天目（蠶三）　3 佐藤（絲二）　4 御子柴（絲一）　5 竹内（絲一）　6 柿澤（紡一）

11、圓盤投
1 平子（絲二）廿七米一四　2 市原（蠶三）　3 日幡（絲三）　4 田中（蠶一）　5 板谷（絲二）　6 足立（蠶一）

12、百米競走
1 濱村（蠶一）十二秒五　2 海野（絲一）　3 佐藤（蠶三）　4 生天目（蠶三）　5 佐藤（蠶一）

22、走高跳
1 飯田（紡二）一米六五A　2 岡田（絲一）　3 神崎（蠶一）　4 伊藤（紡三）　5 外城（絲三）　6 目崎（蠶二）

25、砲丸投
1 平子（絲二）十二米〇二　2 平林（紡三）　3 日幡（絲三）　4 鈴木（蠶二）　5 相澤（紡一）　6 福永（紡三）

30、四〇〇米競走
1 海野（絲一）五九秒五　2 御子柴（絲一）　3 佐藤（絲二）　4 佐藤（蠶一）　5 足立（蠶一）　6 村澤（蠶一）

33、三段跳
1 飯田（紡二）十一米八四　2 關谷（蠶一）　3 神崎（蠶一）　4 伊藤（紡三）　5 磯部（絲三）　6 武捨（絲一）

37、槍投
1 日幡（絲三）四十二米三四　2 田中（蠶一）　3 清水（蠶三）　4 足立（蠶一）　5 平林（紡三）　6 高橋（絲三）

38、二〇〇米競技
1 濱村（蠶一）廿六秒五　2 吐師（紡一）　3 相澤（紡一）　4 柳澤（蠶一）　5 板谷（絲二）　6 武井（絲二）

48、一五〇〇米競技
1 村澤（蠶一）五分十八秒六　2 生天目（蠶三）　3 柿澤（紡一）　4 佐藤（絲二）　5 竹内（絲一）　6 福田（蠶一）

54、棒高跳
1 神崎（蠶一）二米九五A　2 飯田（紡二）　3 伊藤（紡三）　4 佐藤（蠶一）　5 金藤（絲三）　6 田代（絲一）

62、走幅跳
1 海野（絲一）五米六六　2 飯田（紡二）　3 平子（絲二）　4 關谷（蠶一）　5 若林（蠶三）　6 矢野（蠶三）

67、長距離競走
1 長澤（蠶二）四十二分四十秒　2 鞭（絲一）　3 村澤（蠶一）　4 小林（蠶一）　5 今井（蠶一）　6 山田（蠶一）　7 市川（蠶三）　8 西井（絲二）　9 若林（絲一）　10、笹川（絲一）

78、八〇〇米繼走
1 養蠶科チーム　一分四十七秒六
濱村（二）足立（二）神崎（一）生天目（三）
2 製絲科チーム
海野（二）平子（二）佐藤（二）武井（二）
3 紡織科チーム
吐師（二）百川（二）飯田（二）柳澤（三）

柔道部明治神宮柔道大會出場　十月廿八日より十一月三日に亘り擧行せられた第九回明治神宮体育大會に於ける十月廿一日の柔道大會に本校柔道部よりは佐藤祐三（蠶三）、補缺相澤清正（紡一）の兩君出場、佐藤君は善戰よく三回戰迄頑張つた。即ち一回戰は不戰一勝、二回戰は横濱高工の市塚選士に勝ち三回戰に於て國士館中林選士に破れた。

弓道部明治神宮体育大會出場　弓道部は十月廿八日より十一月三日に亘り擧行せられたる第九回明治神宮体育大會の大學高等專門學校の部として十一月二日神宮内苑假弓道場に行はれた弓道大會に出場す。成績左の如し。

二中
三中
二中
合計
七中

試合は各校射數十二射にて出場校六十九校中最高的中校より數へて十二校が第一豫選を通過し三日の決勝戰に於て慶大十中にて優勝した。第一豫選通過は八中以上にて本校は七中なる爲め惜しくも落ちた。因に本校關係諸校の成績は松本高校三中、東京高蠶五中であつた。

小口宗久（絲選三）
小松　忠　幸（絲三）
都筑　正　一（蠶三）

	100米	200米	400米	800米	1500米	長距離	800米繼走	走高跳	走幅跳	棒高跳	3段跳	槍投	砲丸投	圓盤投
紡	0	9	0	1	4	0	1	9	5	9	9	2	8	0
絲	5	3	15	9	5	5	3	7	10	3	3	7	10	12
蠶	15	9	6	11	12	16	5	5	6	9	9	12	3	9
計							127	97	57					

製絲科三年卒業製作題目

一、製絲機械特に原動機に關する調査　（内田教授）金藤　正　治、吉川　啓　人
一、生絲の彈性度及び之に依る織物に對する適合性の研究　（窪田助教授）日幡　暎　一、外城　和
一、觸蒸による生絲諸性質の變化　（窪田助教授）原口惣一朗　中村　達、北澤　泉
一、繊數の生絲に及ぼす影響（窪田助教授）濱田　浩、宮田　修、小口　宗久
一、高級生絲製造に於ける薄皮除去に就て　（鷹野講師）倉田　正　一、高橋重一郎
一、索緒方法に就て　（鷹野講師）野口　晃、吉瀬　重正
一、煮繭程度と繰絲成績に就て　（荻原助教授）磯部　鉄　雄、内間　仁　三
一、原料繭の基礎調査に就て　（荻原助教授）小松　忠　幸、藤田六五生
一、理想的施繊裝置に就て　（荻原助教授）太田　速　雄、進野　精　生
一、多條繰絲に於ける各種條件と繰絲成績との關係　（鷹野講師）上田　實
一、滲透回數と吸水量との關係に就て　（荻原助教授）金丸　八　郎、加茂小四郎
一、繭檢定に就て　（林教授）塚田　和　麿
一、生絲貿易に就て　（林教授）高田　正　氣
一、製絲業に於ける資本構成の分析的考察　（林教授）成澤　榮　一
一、蠶絲業政策に對する經濟的並に技術的考察　（林教授）有賀　正　治、伊藤　一　義、内海　弘、尾崎　孜

紡織科三年卒業製作題目

一、ステープル　ファイバーのストレッチ　スピニングに關する研究　（香山助教授）平林　孝　方、白鳥　竹　和
一、人絹のオイリングに就て（香山助教授）金井　忠　義、早田　充　利、小林　龍　太
一、ステープル　ファイバーの撚及び藥品處理が强力伸度に及ぼす影響　（野口教授）高橋　卓　爾
一、羊毛纖維の化學的性質に就て　（岡教授）阿久津伊平
一、モスリンの强力伸度試驗　（小林講師）齋藤　生　實
一、綿絲の均齊度に關する試驗　（岡教授）本多　武
一、デニールを異にする絹メリヤスの各種試驗　（小林助教授）小林九十二、植田　實
一、人絹織物艶消法一束　（日崎助教授）野村　英　夫
一、染色を異にする綿絲の各種試驗　（小松講師）伊藤　二　男
一、リング撚絲機に依る撚絲に就て　（石倉講師）柳澤　柳　二
一、石鹼の成分組成の分析　（小松講師）永井　千　治
一、撚及び綿長を異にする絹紡絲の强力伸度に就て　（野口教授）小畠　武　明
一、絹紡法に依る人繊紡績の各工程に於ける單繊維の强力伸度試驗　（野口教授）中田　正　信
一、絹布の防水加工　（目崎助教授）嗣永　雄　三
一、繊物用糊料に就て　（小松講師）大塚　浩
一、ステープル　モスリンの强力伸度及び染色試驗　（小林助教授）淺山　茂　樹

母校職員（昭和十二年六月卅日調）

校長

修身　從三位勳一等　農學士　針塚長太郎

教授

生理化學、纖維學、同實驗、蠶桑化學、同實驗、絹絲化學、同實驗
英語、佛蘭西語
乾燥論、機械設計及製圖、熱機關學
材料強弱學、機械學大意
植物學、同實驗、農學、栽桑學、動物實驗
微生物學、蠶體病理學、蠶體病理及微生物實驗
動物學、同實驗、獨逸語
數學、物理學、同實驗、氣象學　物理演習
紡織原料論、織機論、機械設計及製圖
遺傳學、蠶種學、動物學、同實驗、特別講義
同實驗、蠶兒飼育
土壤學及肥料學、紡織原料論、精練漂白論
絹絲化學
數學、力學機構學、水力機械學、電氣學大意
化學、同實驗、英語、膠質化學
發蠶學及蠶業汎論、發蠶論、蠶體解剖及蠶體生理學
同實驗、蠶兒飼育
製絲學、同實習、工場管理論　同實習、繭檢查
昆蟲學、栽桑學、圃場實習
紡績各論、紡績實習

教務課長　正四位勳三等　農學博士、農學士　井上柳梧
正四位勳三等　文學士　和田仙太郎
從四位勳四等　工學士　大瀧照太郎
製絲科長　教婦養成科長　從四位勳五等　農學博士、理學士、農學士　遠藤保太郎
發蠶科長　正五位勳五等　農學博士、農學士　佐藤利一
正五位勳五等　原田親雄
絹紡織科長　正五位勳六等　工學士　岡德治郎
正五位勳五等　農學博士、農學士　佐藤春太郎
正五位勳五等　農學士　古谷榮藏
生徒主事　從五位勳六等　工學士　內田浩
從五位　理學博士、理學士　金子英雄
從五位勳六等　農學博士　蒲生俊興
陸軍步兵少尉　從五位勳六等　林貞三
從六位　倉澤美德
從七位　野口新太郎

配屬將校

教練　陸軍步兵中佐　正六位勳四等　谷弘

助教授

撚絲及機織論、同實習、織物仕上論、織物分解
化學、同實驗
生絲整理及檢查論、同實習、乾繭論、同實習、統計學
乾燥論
製絲論、同實習、蠶絲論、製絲原料論
蠶體解剖及蠶體生理學　同實驗、蠶種學、同實驗、測量
發蠶學、蠶兒飼育
紡績各論、同實習、撚絲及機織論、同實習、織物組織論
體操
紡織論、同實習、英大小論、同實習

目崎三郎
須田非二
陸軍步兵少尉　正八位　窪田潤
陸軍砲兵少尉　正八位　荻原清治
山口定次郎
生徒主事補　香山清和
志賀章雄
小林侑一

講師（囑託日附順）

修身
法制及經濟學、工業經濟、簿記、工業簿記
工場法、生絲貿易論
紡績原論、原動機喞筒、圖案、材料強弱學、乾燥給濕論
養蠶學
農業經濟學、蠶絲經濟論、英語
製絲經濟學
動物生理學
植民講話
修身作法、國語作文、特別講義
製絲原料論、屑物整理論、製絲論、同實習、工場管理論
關係法規、物理及化學、數學

上田中學校教諭　從六位　松岡重三郎
圖書課長　正四位勳三等　法學士　阿形輝司
從四位勳四等　工學士　石倉新十郎
農林省蠶絲試驗場技師　從五位勳六等　農學博士　松村季美
經濟學士　小泉所
經濟學士　野崎清
理學博士　八木誠政
正四位勳三等　農學士、法學士　男爵　稻田昌植
（兼）志田敬夫
（兼）鷹野誠一

助手

機械工作、同實習、電氣工學、同實驗、電氣工學大意
發蠶論、蠶絲論、蠶兒飼育
化學實驗
化學、實驗、絹絲化學實驗、色染論、同實習
機械設計及製圖

（兼）小林清丸
（兼）宮坂收
（兼）細川豐
（兼）小松忠一郎
（兼）湯原諦
製圖　內藤榮吉

書記

會計課　會計課長兼庶務課長　勳六等　依田啓藏
圖書課　從七位勳八等　都筑貞吉
庶務課兼會計課　勳七等（旭）功七級　和田主計
會計課兼庶務課　淸水運策
教務課　春原良太郎

囑託

學生課　陸軍步兵中尉　從七位　石井清司
校醫　醫學博士　森健二
名譽柔道師範　飯塚國三郎
柔道師範　上田中學校教諭　依田誠
天梓蠶飼育　赤沼治男
文學士　半田孝海

雇員（副手、雇）

製圖室　小林清丸
教婦養成科　志田徹夫
製絲實習室　大原賢治
教婦養成科　鷹野誠一
庶務課　田玉龜太郎
發蠶實習室　宮坂收
庶務課　勳七等（旭）功七級　細谷金次郎
發蠶實習室　茅野功
化學實驗室　細川豐
製絲實習室　宮內智
圃場實習室　池內眞吾
製絲實習室　片岡綾雄
會計課兼發蠶科　久保藤一
紡織實習室　小松忠一郎
病理實驗室　町田博
發蠶實習室　小林敏
學生課　宮原大正治
養蠶實習室　金澤勇
紡織實習室　湯原諦
養蠶實習室　關博夫
圖書兼會計課　高橋眞澄
製絲實習室　征矢克郎
教婦養成科　副田好美
養蠶實習室　山崎背錄
圖書課　松田明文
庶務課　西澤喜美
養蠶實習室　鎧塚好作
教務課　北村俊一
紡織實習室　山寺豐一
化學實驗室　田上忠義
病理實驗室　兒玉新一
圃場實習室　武井仙太郎
養蠶實習室　鈴木俊夫
化學實驗室　小木曾眞佐雄
會計課　宮本英雄
紡織實習室　清水保
生物實驗室　原利夫
化學實驗室　三戶部滿

製絲教婦

茨木こう
牧野久
堀內波
山崎ゆり

第十一回代議員會開會通知

來る十一月二十三日午前九時より母校に於て第十一回代議員會を開會致します。支會長各位には管内代議員に御出席下さる樣御配慮御願申上げます。而して御參會下さる各位の御氏名本會迄御通知下さい。

昭和十二年十一月　　千曲會

『蠶絲學雜誌』の支援を請ふ

事務、編輯等一切刷新のため發行が豫定より遲れましたが愈々第十卷第一號は十月末を以て發刊されました。此の學界奉仕事業に絶大の御支援を請ふ。

主要内容

粉末比重の桑葉々質判定上の意義……岡部康之
肥料要素の桑の葉質並に收量に及ぼす影響……須田圭二
絹織維に對する酸性液中溶存の影響……小松忠一郎
最近に於ける絹織維染色化學の問題……小松忠一郎
最近に於ける蠶絲化學と蠶絲の新用途……井上柳梧
繭絲織度と發蠶法との關係論文抄錄……勝又藤夫　外

昭和十二年十一月

上田市　生絲の國社内
蠶絲學雜誌發行所

蠶絲學雜誌原稿募集

蠶絲學雜誌編輯及印刷も漸く軌道に乘り第十卷二號も第十卷一號に引續き唯今印刷中であります故本月末には讀者諸兄の御手許に分配の運びとなる事と考へてゐる次第であります。就きましては第十卷三號の原稿を至急募集いたします。募集締切は十二月末日であります。

昭和十二年十一月

上田蠶絲專門學校千曲會
蠶絲學雜誌編輯部

年賀廣告募集

例に依り本紙明年一月號に登載する年賀廣告を募集致します。冗費節約旁々本紙援助の意味で何卒多數御申込あらん事を切望致します。特に本年の如き非常時局に際しては年賀狀に替ゆるに本廣告を以てするは最も意義ある方法と思ひます。少くとも會員間丈はそうしたいものです。

一、締切期日　十二月十五日迄
一月號は特に元旦に郵達される樣にする爲め締切期日を右の如く早めます。年賀廣告以外の記事も同日迄に送附して下さい。

一、料　金　一人　金五十錢
特に指定なきは勤務先姓名丈を載せます。記載事項に注文ある向は原稿を送附して下さい。字數が餘り多いと割增金を御願ひするかも知れません。御申込と同時に料金を振替口座東京四三三四一番へ年賀廣告の旨御明記の上御拂込下さい。

昭和十二年十一月　　千曲時報編輯係

本會記事

本會日誌

十月六日　代議員會提出問題に就て各支會長へ照會す。
十月九日　稻生得藏氏（蠶十一）逝去に付弔電を發す。
十月十二日　會員名簿調製に付各支會長へ加除訂正方依頼す。
十月十三日　理事會開會應召會員慰問の件協議す。
十月二十三日　西ケ原同窓會より應召會員中に對する慰問狀況照會せらる。即時回答す。
十月二十九日　應召會員に對し慰問狀並に慰問袋の發送始む。
十月三十日　應召會員にして所屬部隊の通知無き分關係市町村へ照會す。

會員應召者

前月號發表以後の應召會員は左の諸氏である。切に武運長久を祈る次第である

田角又十郎氏　針塚民一氏
倉澤一二三氏　細川豊氏
池田眞吾氏　清水浣氏
坂口芳文氏　鈴木茂氏
西川晋氏　小山清氏
笠原松平氏　桐原達郎氏
山崎保太氏　山木辰雄氏
神林浩三氏　大橋富次郎氏
桐本多喜男氏　佐久間幸一氏
小林忠十郎氏　藤澤喜一郎氏

山本金之助氏戰傷

應召され戰地に於て御奮戰中なりし山本金之助氏（絲二十）は十月二日某方面の戰闘に於て重傷を受け近く内地に歸還の趣との通知ありたり。然して十月十四日付同氏より母校岡教授宛左の薬書ありたり。

先生御無沙汰致して居りました。○月○○日召集されて○○日○部隊に入隊し○月○日出帆、天津に○○日到着、毎日行軍して參り○月○日戰闘にて不幸にも兩側大腿部貫通銃創を負ひ今野戰病院で擔架の上で伏せつて居ります直ぐ治ります。又第一戰に立ちます。皆樣によろしく。久し振りでお便り致します。天津を去る南方約百里○○○に居ります。水と食物の不足には大弱りです。

戰死せる中島健爾君最後の書信

謹啓、一別以來誠に御無沙汰勝ちの段御海容下され度候、上船以來十數日文字通り難進軍、沼地泥地膝を沒し、人馬諸共踏みわずらひて一日漸く三、四里、たど〳〵一茅屋に着き戰場の夢、日夜不休の疲勞其の極に達し其の日の疲れを癒やすべき住食すら乏しき有樣、加ふるに雨々にて第一線に漸く十日到着、此處北支郎坊を隔つ事二十里團城なる小村の民家に駐屯致し居り候。銃砲聽きわたり友空軍重爆の相翼を張りて敵地上空を飛行する樣又よからずや。兄等必ず驚嘆せらるゝであらう。此の地、此の村婦女子一人すら無く眼慰さむる何物も無し。然りとて良食ありて不自由無ければましなれども飲む湯すらにがしぶき濁水にて大行李の戴せ來りし米も雨水の爲め醱酵し食するを得ず誠に閉口致し居り候。敵は數十万永定河（白河上流）の東南岸に陣地を構築此の敵を撃滅すべき任務を有する我が軍は○部隊、○○部隊、小兵等には細部不明なるも○部隊付にて重要任務を有し居り候。今後第一戰を交はふべき準備を近く敢行する事になり居り候。其の節は御無沙汰勝ちに相成候事故豫め御詫び申上候。先は御一報申上候（戰死發表後數日を經て到着せる書信にて發蠶科第三學年宛のものなり）

會費領收（十一月五日現在）

坂田正贊（蠶八）　西山市三（蠶九）
勝又藤夫（蠶九）　尾藤省三（蠶十）
若林茂一（蠶十二）　安部和（蠶十三）
内田訓之亮（蠶十三）　武本本治（蠶十三）
樋村忠義（蠶十四）　出穂稔（蠶十七）
茅野功（蠶十九）　厳（蠶十九）
都筑清治（蠶二十）　吉田太郎（蠶二十）
金洛禎（蠶廿一）　森山甫（蠶廿一）
酒匂景雄（蠶廿一）　渡邊嘉博（蠶廿一）
伊藤幸男（蠶廿一）　坂口育三（蠶廿一）
高橋悟（蠶廿三）　關博夫（蠶廿三）
原利夫（蠶廿四）　武井仙太郎（蠶廿四）
桂元三（蠶廿四）　渡邊雪雄（蠶廿四）
大塚重藏（絲八）　北本重郎（絲八）
石濱正巳（絲十）　粟野愼一郎（絲十二）
根津健（絲十八）　一之瀬茂（絲廿一）
上兼之有（絲廿三）　臼井洋介（絲廿一）
青木靜志（絲廿四）　小松正敏（絲廿四）
佐久間幸一（紡十）　小松忠一郎（紡三）
宮下和三郎（紡十二）　向井孫市（紡十二）
佐藤佳良（紡十六）　下世古廣志（紡十六）

故高森行雄氏御遺族より本會へ寄附

先般母校紡織科三年在籍にて病氣休學中不幸長逝された故高森行雄氏（大卒田市出身）に對し友人有志間にて弔慰金を募集し御遺族へ贈呈せる處、此の程同氏嚴父武七氏より有志一同に對し左の如き鄭重なる禮狀と共に千曲會宛金貳拾圓の寄附を申込まれた。同氏の長逝は未だ母校卒業前の事にて本會員と云ふ譯にもなかりしに遺族の斯樣な取計らひは大いに痛み入る所なるも折角の申込なれば之を受納し、之を以つて千曲會館内に何か適當の什器を購入し、將來永久同氏追憶の記念にする筈である。

拜啓　時下秋冷の候と相成候處彌々御清祥之段奉大賀候、陳者此度は亡行雄に對し螢窓の友としての誠に御鄭重な御心誼しを辱ふし難有拜受仕候、嘸かし行雄も草葉の蔭にて學友各位の斯く深邃なる御高志を拜戴し感泣致し居る事と存候、茲に愚父よりも重ねて御厚禮申上候、先は不取敢以す楮御禮迄如斯に御座候、追而同封の金額甚だ僅少には御座候得共千曲會の御備しに何か御用達賜らば故人も本望かと思料仕候何卒御利用被成下度御願申上候　敬具

十月三日　大卒田市本町二ノ三九　高森武七

新任御挨拶

拜啓秋冷之候愈々御健勝之段奉賀候陳者小生儀吉野商店勤務中は公私共多大の御懇情を蒙り淘に難有奉深謝候今回同店を退職仕り母校蠶絲化學教室に勤務する事に相成候に就ては今後共宜敷御指導御鞭撻賜度奉願候先は乍略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候　敬具

昭和十二年十一月　古平庄衛

新任御挨拶

拜啓秋冷之候愈々御健勝之段奉賀候陳者今般小生儀母校紡織科に副手として勤務致す事ご相成候に就ては今後共宜敷御指導御鞭撻賜度奉願候先は乍略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候　敬具

昭和十二年十一月　藤松利八

支會通信

同窓之戰士歡送

上野朴水

嵐に躍る日の丸の翻き怒濤と寄する萬歳の雄叫び馬蹄の響き劍尖の閃き軍樂隊を先頭に軍靴の音勇しく勇躍聖戰の壯途に着く祖國の守り我等の戰士、送る者送らるゝ者千種千樣の出征エピソードを納めて皇土津々浦々萬歳の叫びの絶ゆるなし。亞細亞之光此處大日本精神發祥の地○○に於ては既にして三ケ月こうした雰圍氣に明暮れてニバトリの鳴聲すら萬歳〳〵と聽へて來る。

同窓にして既に聖戰に應召せるもの○○名に近く余の級友に於ても九州、上田を合して五指に餘り或は北支に或は南支に皇軍の華と咲く朝な夕な神前に額き武運長久を祈りつ感激に耐へず。こゝに同窓戰士を送れる日誌の一片を引伸し同窓諸彦と其の行を具にせんとす。

一、百瀬　正君

○月○○日小生長男、發熱四十度不眠の看病○○日午前中三十八度小康（以後再び發熱醫師の營養療法惡く二週間近く三十八度以上なりしも以後小生の營養學說醫師を說得し其の協力により次第に快方に向ひしも病臥五十日に及びたり。同窓にして愛兒を持つ諸彦よ。消化器病の場合は特に林檎粥療法を試みられ度し。九九十%快癒せん）直に充血の眼を押して役所に出でしに午前十一時頃電話にて百瀬正君の來宅を知る。若しやと思つたが到頭來たか。感激してか体中熱氣を帶びて來れるを感ず（百瀬正君は溫厚勤勉實直な軍人なりしも軍人として稍優形なり。此爲に或は幹部候補生の選に漏れたるならんか。若き同窓の注意を喚起す）

「動員召集で參りました。宜しく願ひます」

「御苦勞樣、御苦勞樣です。よく來宅して呉れました。私は實に嬉しいです。何んですつて、午後一時ですか。そいつあとんでもなく早急だな！」

裸になつて汗を落し、食事を急がせて奉公袋一つとなつて入隊場へ。話すは戰爭の話ばかり既に思ひは北支に飛んで。

思へば去る○○日夜土肥原師團長閣下の大講演を思ひ出す。擊滅せよ中國々民黨及コミンテルンと絶叫して堂若たりし英姿、而も講演中に第一時大動員令下り號外は場外に雄叫べるに。語る中將、聽く我等、其の胸中！　次いで○○日は小生の役所にも二名の召集を受け彌が上に氣分を引立てたるなり。

二回目慰問に訪れし時は愈々出發豫定日も定り緊張は其の極に達してゐた。

○○日午前一時小兒の看りに眠られぬまゝにをる時しも鳴り響く何度目かの喇叭の音。

今度こそはと待つ間もなく勇躍隊長の馬上の劍尖に續いて○○部隊の主力部隊が軍樂隊の後に續く。萬歳の聲も既に枯れ血を交へて悲壯を帶ぶ。その聲旗の波を押し分けてつと本隊より走り出でし勇士「おゝ百瀬君！」「色々有難う存じました。行つて參ります」「しつかりやつて、頑張つて呉れ。母校の名譽の爲めにも、同窓皆で祈つてゐるぞ！」固い握手、百瀬上等兵萬歳！殘されし余の瞳は血走る。北支上陸後毎日の新聞に先づ○○部隊の活字を追ふ。皇軍保定占領の電波は世界に飛び、市民數万の祝賀提灯行列も終つた廿三日數葉の軍事郵便が何れも北支保定から、兩隣の將校の通信に混つて毎日安否如何にと案じたる百瀬君よりの便りを見付けた。あなうれし悅ばし君無事なりしか今宵の月皎々。月よ傳へよ保定の君にこの喜びこの祈り！　同君の便信

「暑い〳〵○月にお別れして早や四十日秋涼の候となりました。お變り有ませんか。お子樣は如何です。○○月○日に上陸後手紙を書きましたが投函の機を得ず（中略）九月十日から敵との對峙が一昨日終り追擊又追擊、蜘蛛の巢の樣に飛來す○彈も案外中るものでないには意外でした。彈丸雨注と云ひますが本當に雨の樣に參ります。十五日頃最前線に出て食もなく十日間生芋を喰り乍ら全く糧抹の戰の方が苦しい位です（中略）今月末に又戰を廣げます南へ〳〵黃河にと。亂筆にて」

二、池内　眞　吾君

百瀬君の入隊日より恰度二ケ月目時間を同じくして昨年演習召集に來訪せる池内少尉が○月○○日午前十一時あたふたと來場「やあ君も來たのか。御苦勞ですね。先日唐木田藤五郎さんが見へて張切つてゐるとの噂を聞いた所ですよ」

「將校の召集は急なんだそうで即日入隊です。用意の出來てゐたのは氣分と軍刀だけでした」「午後一時入隊ですか。百瀬君と同一だね。幸先がいゝぞ。保定からの便りを見て下さい。もう金鵄勳章ですよね。腹が減つては戰爭が出來ぬ。まあ腹ごしらへをして堂々と入隊しませう」

翌日電話にて○○部隊土屋隊に配屬され通知あり、下市（私の所より一里半近くあり）に宿泊され隊の編成兵員の指導出征準備に出發迄全く晝夜を分たぬ多忙に過した。それ故私が訪問しても二回共午後十時頃よりの面會となるので歸宅するのは眞夜中である。幸ひ土屋隊長は小生の知人であり同縣人にて再度出征の經驗を有する良將なるを以つてよく池内少尉の後事を計られ度く願ひ置きたり。

池内少尉に武運長久を祈りて千曲會員小生の署名を記し敵地に飜されん事を願ひ贈りたり。少尉は既に母校針塚校長先生より戴ける日章旗を胸に抱き居り必ず敵トーチカ上に先生並に會員の魂籠れる日章旗を輝かさんと腕を撫し居りたり。

「毎日何んでこんなに忙しいのか不思議な氣分も起りますよ。それでも認識票を渡された時は愈々行くのかと思つてしんみりしました」と述懷せり。認識票は小形小判大にして池内少尉とあり。

出發の○月○○日私は船後大兄と共に驛に行く。旗の渦、提灯の波、軍歌に萬歳に人の熱氣が廣場一杯に漲つてゐる中を厚釜敢も巡査と憲兵の垣を押分けて土屋隊長の名を連呼し乍ら遂に隊長並に池内少尉の武裝凛々しき姿に接した。船後さんは武の神鹿島神宮のお守を渡された出征の壯途を祝ひ暫しの別れを惜しむ親戚知人、知ると知らざるとに區別なく或は男女學生が將士に名詞を交換して武運を祈りつ或は軍歌に或は應援歌に軍籍にある者出征の榮を擔ふこそ全く日本男子の光榮とやいはん。送る者に取りてこんな時こそ勇壯なる同窓歌があつてもよいと思へた。

私は一人聲張上げて吾等の戰士を送つた「立て〳〵〳〵〳〵霆專出の雄々しき戰士よ、今日の榮へある聖戰に、破邪の劍採りて立て、打てや懲らせや我等が敵、勝ちて勇姿を世界に示すはこの時ぞ、フレ〳〵池内少尉！」

面會時間も終つて知事の歡送の辭に續いて○○部隊長の答辭、崇高な國歌の軍樂の音に肅々と乘車する我等の勇士我等三人固い〳〵握手の後に少尉は二等車の中央に各將校と列立、旗の嵐、萬雷の如き萬歳に送られて池内少尉は何度も何度も點頭しつゝ互ひ血走れる瞳を燒付け交しつゝ。あゝ少尉のあの瞳我等のこの感激永へに燒え續け！

○

出征に於ける歡送の萬歳程千種千樣悲喜交々、愛惜切々勇壯豪華のものやあらん。出征同窓勇士の武運を念じつゝ敢へて玆に拙文を記す。

安東千曲會燦たり

（安東千曲會特報）

安東千曲會は今度支會長湯川秀夫先生及び本間國夫先生を迎へその榮光に輝き燦たり。

匪賊が一番多いと云はれて居る安東省寬甸に出張せられたる支會長湯川先生及び本間先生同時に安東に然も微傷だに負はれず安着せらる。安東の長老三浦先生より全員○○に集合の指令飛び全員集合せるは數刻の後。會員中には大小花二輪即ち荻原まさじ孃に山崎かよ孃あり。

ビールはアルコール分が少いとあつて日本酒、飲めども飲めども一向に醉の廻りたるものなし。安東は魚が良いので魚料理、旨いし酒は良し、忽ちトツクリのラツシュアワー、何時間飲んだであらう。興愈々つのり寄せ書なす事に滿場一致可決、その筆捌、實に鮮やかなるもの。

北支も吾等の領分だ　湯川先生
丸窓も北支から明けて行く　三浦先生
北支南支も何のその　岡崎先生
本間さん　本間先生
進め北支へ！全亞細亞へ！　益淵先生
感激の人生　上條先生
千軍萬馬に紅二點　〔荻原先生
あゝ校歌も懷し　〔山崎先生
讀人知らず

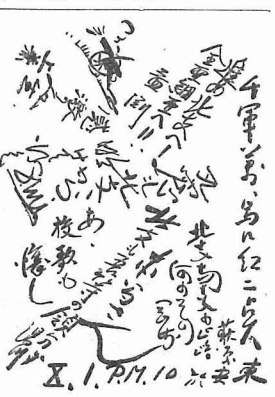
時は將に重大時局、我等が抱負は滿洲より溢れて北支へそして全亞細亞へ飛ぶ。誰となく歌ひ出した校歌、肅然としてひとゝき學校を偲ぶ。

盛況裡に會を終らんとする時記念の爲に撮影をなす。この時ばかりは長老方も皆童顏。會場を出て國境の街を一歩二歩、のびたる者、否顏の色の變りたる者無く國境の月そして星が我々を祝福するかの如く天空高く輝く。江向（カワムカウ）は日本だ！求めて入つた一料亭、すべてが吉日の今日だ。開業第一日！　サービス良し、酒良し周圍よし、木の香新しく疊綠なり。飲んで交して汲んで飲んで！

安東は明朗だ！支會長と本間先生より御ほめにあづかる。

皆の健康を祝して散會！

時既に○時○○分、ノビたる者一人もなし。



越佐千曲會總會

十月六日蒲生理事長の來場を機とし長岡市外宮内町竹花屋に於て越佐千曲會總會開催す。左は當日出席者の寄せ書である。

岐阜千曲支會長上原兄を送るの記

岐阜千曲支會長として本支會創立以來御在職且つ又縣蠶絲課主任技師として約十年間縣下蠶絲業の爲め行政手腕を遺憾なく發揮され多大の功績を殘して此度德島縣蠶業取締所長として御榮轉せられたる上原大兄は明朗濶達にして如何なる問題も快刀亂麻の如く即座に解決され其の敏腕は此度の產繭處理統制に次ぐ諸問題等の難局に直面して驚くべき効果を收め當業者間に多大の信望を有するものであり岐阜千曲支會も兄の御努力の爲め其の數を增し存在を明かにせしか此度大兄を送る御榮轉を祝福すべきでありながら親を失ふの感切なるものである。時將に非常時華陽健兒は暴支膺懲の爲め上海第一戰に於て其の鋭鋒を挫き勇名を中外に發揚せる際とて我々は簡單なる粗宴を開き大兄と膝を交へて晩餐を共にし一夕を語る。多端の時局にも不拘會する者十六人遠く飛驒掛巒大井より鍵谷、後藤、萩原井口の諸兄の顏も見え和氣靄々裡に杯を交す。榮轉を祝ふの會、惜別を悲しむとは申せ常時ならば一騎當千の者揃ひ一驟ぎ演ずるのであるが當日は敵前上陸第一戰の矢佳中佐以下屍を馬革に沈みし百十二勇士の靈柩芳骨を迎へし當日痛惜の情去らず靜かに語り靜かに交す寄せ書をして解散す。明くれば十六日大兄出發の日非常時にして然も雨天にも不拘見送る者百有餘人以つて大兄の人格を思はれ欣快なり。非常時局の只中に飛躍の一歩を踏み出せる大兄今後の御活躍と御健康を祈りつゝ本稿を記す。（松井記）

當日出席者（順序不同）

後藤宰一、日比野一夫、鍵谷傳萩原孫三、間宮成吉（代）、北澤周一宮川繁治、三輪貞德、山本傳一井口澄男、湯原重敬、久保田松藏池田爲雄、田ノ岡實、松井憲二

鹿兒島支會より

母校に於て代議員會が十一月下旬にあると聞いて早速總會を開き支會としての意見を纏め樣とした處恰も十月三十日から十一月三日迄日本中央蠶絲會主催の「時局と國產絹の會」が開催され十月三十一日と十一月一日の二日間九州沖繩蠶絲技術官會議があり福岡からは蠶絲課長と同窓三人、佐賀より栗原場長が見えるとのこと丁度都合がよいので十月卅一日の夕刻から市の南方海濱の近くで開いた。

出席者は市內から木脇支會長、井上、安田、守屋　市村、土生、細田の七人、日置郡から櫻井、宇都宮の二人、大島から福富、中山の二人と福岡から藤課長、中田、寺島、栗原の諸氏に鹿兒島高農の北島先生でこの支會始めての盛會であつた。美妓は時局柄遠慮して晩餐會の程度ではあつたが皆兄たり弟たりの間であるので相當話がはづんだ。

左に集まつた各人の印象的スケッチをする。

木脇支會長　髮を分けてゐない處から確かに謹嚴そのもので曾つて艷種を聞いたことがない。併し興が乘れば木石に非ずと思ふ。銃と獵犬の良いのがゐて先生を狩獵に追ひ立てる由。支會長として神樣の如く下手に一流の料亭邊りに總會を計畫すると窘められる。最近續いた野外教練にて聲を涸らしてゐらつしやつた。

櫻井吉利氏　伊佐農林にゐれば伊佐農林の櫻井先生か、櫻井先生の伊佐農林かと云はれた程學校を特色づけるに實に專心だ。今は市來農藝の櫻井先生か、櫻井先生の市來農藝かといはれる程有名だ。校長の貫錄は十分ある。校長ぢやないのかと不思議がる人が多い。先生が座にあると話もはづみ明るくなる。人格の然らしむる處と信ずる。

福富繁氏　大島に滿五年、大島蠶業の開發許りでなく本邦蠶種業の爲めに活躍され原蠶種の製造は氏の手を煩はせねばならぬ。仲々太つ腹で若い者を引き立てゝ呉れるし、縣內蠶種業者間に曾て兎角の噂を聞いた事が無い。流石葉隱の面影髣髴たるものがある。

中山吉二氏　大島蠶業試驗場の主任で何時も明朗で—萬年青年—ある。とても親切でよく若い者の面倒を見て呉れる。諸事盡く研究的である。興乘ればフラウは御存じない位良く踊る。

宇都宮休一氏　取締支所長中ピカ一で養蠶實行組合改組も一刀兩斷の決斷力に富む。氏の趣味は鰻釣りで忙中餘閑は大抵溝川に浸つてゐる。酒は嫌ひで燒酎が好きだ。流石は薩摩隼人である。

井上樂氏　縣下の製絲家を牛耳つて居り剃刀の樣に切れる。人柄を見拔くことはうまいものだ。近頃健康とみに秀れて鄕土踊は宇都宮氏と共に名高い。ハンチングと自動車の運轉に妙を得てゐる。今度副支會長に就任した。

安田辰巳氏　繭檢定所の主任で縣內の產繭に全部（大島郡を除く）檢定を受けるので一つに掛つて氏の敏腕に依る譯だ。上田のものは良くやるといふので前任の○○校卒の者はパイされて氏が本所主任になつた。將來を囑望されてゐる青年官吏だ。

守屋一郎氏　素封家の一人息子で近頃取締所の本所に入つた。縣廳の方も一人殖えて大いに心强いわけだ。圍碁は六級位だ。

市村正氏　繭檢定所に在り。將來有望な青年官吏である。

土生鈞二氏　片倉製絲傍系の薩摩製絲

訃報

御逝去通知

本會々員三輪愿氏（絲四）

鄕里に於て自營中の同氏は永々病氣の處養生相叶はず本年三月十六日遂に逝去せらる。謹みて哀悼の意を表す。御遺族は愛知縣海邊郡佐屋村大字須依五百十二番地御令閨三輪久子氏、長女孝子氏である。

本會々員稻生得藏氏（蠶十一）

朝鮮全羅南道原蠶種製造所在勤の同氏は十月四日午前十一時蠶室に於て突如十二指腸潰瘍にて卒倒され爾後專ら療養せられしも養生相叶ず十月八日遂に逝去せらる。謹みて哀悼の意を表す。御遺族は一宮市古久見通三丁目、御令閨稻生糸乃氏と御遺兒三名がある。詳細は藤崎鎭氏の記事參照。（寫眞は同氏の近影）

本會々員益田孝氏（蠶一一）

囊に應召され勇躍戰地に赴かれたる同氏は上海戰に於て重傷され野戰病院に於て逝去せられたり。其他詳細一切不明なり茲に謹んで哀悼の意を表する。追つて弔慰方法は別に定められたる規約に依つて行ふ豫定である。

本社に在り將來有望な青年技術家である細田親二　此處へ來て滿五ヶ年其處此處に知友あり、アルコール量が大分入る樣に銀へられた。時に信州鄕でやると餘程氣の荒い奴と誤解され易いが仲々心は優しいものだ。

鹿兒島は未だ暖かくセルの氣候で、紅葉もなく芋の味もわからないがとても暮し良い。蠶作も晩秋晩々秋共に良好であつた。時局柄養蠶農家は愈々養蠶精神の振興と產繭の向上を目ざして進んでゐる妄言多謝。（細田記）

本會準會員西原芳氏（教一）

同氏は卒業後約二年日東製絲江見工場に勤務され其後病を得られ自宅に在つて專ら療養中去月上旬其れとは別に突然咽頭後部膿瘍にかゝられ遂に去る十月十七日永眠された。謹んで哀悼の意を表する次第である。御遺族は上田市大字常磐城二九巖父西原醇作氏である。詳細は山崎ゆり氏の記事を參照せられ度し。（寫眞は同氏の近影）

弔慰金募集

故三輪愿氏（絲四）
故稻生得藏氏（蠶十一）

右兩氏に對し弔慰金募集致します弔慰金は昭和十三年十一月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致し度いと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十二年十一月

千曲會

弔慰金報告

故宮下京三氏弔慰金第三回

金貳圓也　平石兵衛
金壹圓也　横山英一、高品喜一郎
　　依田寛之助
右合計金五圓也
累計金參拾五圓也

故稻生得三氏弔慰金第一回

金壹百圓也　朝鮮千曲會一同
金壹圓也　山本奈良三郎、香山清和
右合計金壹百〇貳圓也

故西原芳樣を憶ふ

山崎ゆり

十月十七日、あゝ此の日、忘れられません。柿の葉が朝の霜にカサコソと散つて、人々は收穫の秋を樂しんで居る日、級友西原芳樣の訃報に接し樣とは。自分の目を疑つた程でした。あまりの驚きに涙も出ませんでした。あんなに御丈夫だつた人が死ぬとは。貴女の面影が、日當りの好いお家が、思出は思出を生んで、何んだか、まだあの高台のお家で働いて居られる樣な氣がしてなりません。

卒業して級友三人と共に日東製絲へ入社、約二年にして病を得て退社、御兩親樣のお傍へ歸られて、只管靜養して居られました。此の時も前から御丈夫であつたから直に御元氣になられるでせう、等と話し合つたことでした。其の中に、お母樣を亡くなされて再び社會へ出て働く希みを全く捨て、御弟妹樣方の爲にお母樣代りとなられ、好きお姉樣になつて居られました。其の頃は御病氣も殆んど快かつた樣に伺つて居りました。

クラス中で一番体格も良く、御丈夫であつた人、あの山道を雪の日、雨の日も厭はず、右の肩を幾分上げて、せつせと御通學になつたお姿が、今でも目の前に浮んで來ます。何んでも勤勉に進まれる人でした。それ故に今度の御病氣にも無理をなすつた樣な氣がしてなりません。

三月の學友會にも元氣で出席なすつて樂しく一日を過し、又會ふ機を約してお別れしたまゝ、到頭最後の日となつてしまひました。

會者常離とはいひながら、人の命のあまりも儚なく頼りなさに呆然としてしまひました。然し棺の前、僅に三尺、瞑目合掌して居る自分を發見したとき、始めて滂沱として落つる涙を、心の底から込み上げて來る嗚咽を如何することも出來ませんでした。

お聞きすれば風邪が原因で、咽頭後部膿瘍とか、終には敗血症の徴候も出て、到頭駄目だつたそうです。お家の方々もまさか亡くなられるとは思はなかつた樣でした、病床僅に二週間位御自分でも最後とは、お思ひにならなかつたでせう。

芳は佛樣から「廿五才まで体を貸しておく、廿五才になつたら返すんだぞ」と言はれて來たんです。それを芳も私共も知らずに居つただけなんです。そう語られるお父樣でありましたが、そう言つて諦めて居られるだけに、お心の中お察し申上げて尙悲しいことでした。

教室に、實習室に、常田池に、運動場に、貴女の面影は浮びます。話し聲が、笑ひ聲が聞へる樣です。

お父樣の言はれる樣に貴女の身体は確かに佛樣にお返し申上げたかも知れませんが貴女の面影はお家の方々の胸に、生前お世話した工場の人達の胸に、私共の胸にいつも在るを思ひます。

時、將に國家非常時、貴女にも銃後の女性として充分活躍して頂き度うございました。

然し今は總て空しく、逝く秋と共に去れる西原樣の御冥福を祈り、併せて御家の皆樣の御健康を祈り上げます。

稻生君の逝去を惜む

全南光州　藤崎鎭

十月四日午前九時一寸前稻生君は例の通り出勤せられた。私とは事務上の机が左隣になつて居るので公私共日常座つた儘で用事が足りたのであつた。丁度其の頃朝鮮蠶絲業關係者で軍部に飛行機（愛國朝鮮蠶絲號）を獻納することに話が纏り居り之れが爲め私達も應分の醵出をしやうと二人で語らひ稻生君も共鳴し如斯企てには出來る限りの獻金をしやうなど話し其他事務上の話も出で常と變つた樣子は認められなかつた。

それから同君は試驗係なので試驗事務整理の爲め蠶室の方に行かれた。其の後午前十一時突然發病し執務中卒倒した。氣分が惡い嘔吐を催すと云ふので助手が不取敢附近のバケツを出すと同君は黑褐色のドロ〳〵した血液を吐かれた。之れは後で醫師の言ふ所に依れば既に内出血して居り自然排便と共にも排泄されて居つたとのことである）其の後番茶が欲しいと云ふので一杯差し上げると氣分は恢復したのであらう友人助手などの助けも借らず一人で自宅（官舍）に歸られた。間もなく當地内科醫としての名醫関博士の來診に依り十二指腸潰瘍と判明した。止血劑、强心劑其の他の注射に依り容態には變化なく絶對安靜の儘と其の夜を經過した。翌五日朝は意識明瞭、苦痛なきも顏色は大變惡しく絶對安靜を要する爲め面會を避け一方醫師に依り更に止血劑、强心劑の外リンゲル液の注射をなされた。午後二時第二回目の稍多量（御茶碗二杯位）のドロ〳〵した血塊狀の血液を下より排泄した。然し体温の昇降はなく平熱なるも脈搏一二〇―一四〇を算し心臟は稍弱き傾向であつた。重態の樣に認められたので鄉里親戚の方には不取敢御知らせし看護婦を雇用し職員も交代にて專心看護することにした。十月六日容態には變化なきも依然重態にて病の性質上、流動物は勿論水迄も給與することを許さざる爲めリンゲル液二本を注射し更に島津博士の來診を求め醫術の全力を傾注して只管恢復せられる樣努力した。

六日夜より私は引續き夫人、看護婦と共に徹宵看護に從事したが、容態は漸次惡變し明けて七日午前五時頃には血滯を來し脈搏いよ〳〵微弱となりたるを以つて、丸山先輩、所長、同僚、民間知人等關係方面に即報した。丸山先輩もあまりの突然に驚き馳せ參じ枕頭に侍り看護した。午前六時臨終に陷つた時、稻生君は極めて明瞭に所長に向ひ、遺兒は宜敢く頼む、全南蠶業の發展を祈る旨、遺言し最後に馳せ參じたる諸彦に向ひ、皆さん左樣なら！と最後の一言を殘し南無阿彌陀佛を唱へ悠々安らかに往生を遂げられた。一同愕然として悲傷の涙を止める事は出來なかつた。然るに一時間未滿にて神の助けか脈搏復活再生し發言もせられる樣になり一同秋眉を開いた。臨終に居合せた兩博士も喜び最後の手段として輸血をする事になり同日（七日）午前十時親友稻垣兒の型が合ひ約百瓦の尊き血液を戴いた。其の爲めか同日日中は氣分よく意識は明瞭となり發言するも何一つ誤りはない程しつかりして居られたので、稻生君は命拾ひをした、助かつて一時冥土行は後の笑種となるかも知らんとは家族並に私共のみならず當時同君に會はれた方は何人も斯く考へらる程であつた。然るに天焉ぞ無情なる。其の夜十二時頃より容態再び惡變し翌八日午前三時頃より腦漿を犯されたる爲めか盛んに譫語を發し意識は不明瞭となり脈搏早く且つ微弱となつた。引續き午前六時頃より全く昏睡狀態となられた。看護婦は醫師の指示に依り一時間毎に注射を續け一方酸素吸入も絶へず行ひ續けた。夫人を始め丸山氏、小生及所僚は枕頭に侍り臨終に至る迄見護つた。午前七時愈臨終となられた。別室の所員、助手、知友も一同最後の別をなした。噫午前七時十五分行年三十八才を一期として稻生君は昏睡狀態の儘睡むるが如く多くの同僚に護られ他界せられたのであつた。

稻生君發病より初め息を絶たれた時迄二日十九時間、最後に全く逝去せられた迄三日二十時間の急變にて鄉里名古屋の實兄も一宮の奥樣の母上も臨終に間に合はざるは殊に殘念であつた。發病より逝去迄三日二十時間は短時日にてはあれ此の間稻生君夫人の看護は人並ではなかつた。全く故人に對し獻身的の勤めをせられたのであつた。

故人は性溫良寡言にして熱誠事に當り同僚と摩擦を生じた如き事は認められなかつた。母校卒業後農林省一ノ宮桑園の助手を勤められ大正十五年二月本道產業技手として赴任次來十二年八ヶ月内蠶業取締所一ヶ年餘、他は全部本道原蠶種製造所勤務で專ら試驗係として終始本道蠶桑の改良發達に從事せられ故人の研究事績にして既に發表せられ斯業に貢獻せられた事項は決して尠くないのである。又故人は家庭に於ては良き主人であり亦よき父であつた。從つて夫人も子供も亦此の家長の統制の下に圓滿なる生活を續けて居つた。然し噫主人なき今後の生活は如何！　況んや故人は廉潔無私、恒產なきに於ては殘されたる若き未亡人と九才を頭の三人の遺兒の前途を思ひ誠に哀惜極まりなきものがある。夫人は涙の中にも毅然として語る。今後亡き夫に盡す道は唯遺兒の教育に專念し、國家有用の材を作るにありと。誠に宜なる言である。從つて故人の墓地は現住所（未亡人の出生地）の近くに定め借家も附近に求めて永住の計畫の由である。

因に未亡人（稻生糸乃氏）並遺兒は去る十月二十九日當地、全南光州府を引揚げ歸國された。御住所は愛知縣一宮市古久見通三丁目である。

廣告規定

寸法／期間	一月	六月	一年
一頁	一三、〇〇円	六四、〇〇円	一二六、〇〇円
1/2頁	七、五〇	四〇、〇〇	七〇、〇〇
1/4頁	四、五〇	三三、〇〇	四〇、〇〇
1/8頁	二、五〇	二三、〇〇	二四、〇〇
1/16頁	一、五〇	七、五〇	一四、〇〇
1/25頁	一、〇〇	五、五〇	一〇、〇〇

但し本會員は七掛とす。

會員動靜（十一月五日現在）

上原清夫（蠶一）（勤）德島市、德島縣廳農務課（住）德島市紙屋町三丁目、角屋旅館方
宮島庄平（蠶七）（勤）佐賀縣西松浦郡二里村、佐賀縣立伊万里農學校（校名變更）（住）西松浦郡伊万里町松島
岸田敏雄（蠶七）上海戰ニテ名譽ノ戰死
增田孝（蠶一）（勤）朝鮮全羅南道海南公立農業實修學校（住）同校々長官舍
田角又十郎（蠶一）（應召）
倉澤一二三（蠶一七）（應召）
山口定次郎（蠶一二）（勤）從前通リ（住）上田市金山町一七八
六川忠一郎（蠶一八）（勤）愛媛縣越智郡富田村、片倉、愛媛製絲所（住）勤務先ニ同ジ
村田一由（蠶一八）（勤）新潟市外山ノ下、新潟人絹工業株式會社
細川豊（蠶一九）（應召）
池內眞吾（蠶一九）（應召）
清水洸（蠶二〇）（應召）
坂口芳文（蠶二一）（應召）
傳田靜夫（蠶二一）（勤）群馬縣富岡町蠶業取締所內、北甘樂郡養蠶業組合
守屋一郎（蠶二二）（勤）鹿兒島縣蠶業取締所（住）鹿兒島市下龍尾町二一
淺川茂樹（蠶二二）（勤）北佐久郡芦田村、蓼科農學校
鈴木茂（蠶二二）（應召）
西川晋（蠶二三）（應召）
藤井料（絲五）（勤）ナシ（住）愛媛縣喜多郡大洲町字三ノ丸
小山清（絲一一）（應召）
笠原松平（絲一三）（應召）
是石春男（絲一四）（勤）諏訪郡下諏訪町、昭榮製絲下諏訪工場
島原友之助（絲一五）（勤）從前通リ（住）神戸市須磨區關守町三ノ三七
兒玉逸夫（絲一七）（勤）東京市麴町區有樂町一ノ七蠶絲會館內蠶絲ノ光發行所
桐原達郎（絲一八）（應召）
山田良人（絲一八）（勤）大分縣西國東郡高田町、高田繭市場
古平庄衞（絲一九）（勤）本校蠶絲化學教室
山崎保太（絲一九）（應召）
田上忠義（絲二〇）（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局蠶繭課
藤森朋美（絲二〇）（勤）米子市旗ヶ崎、鳥取縣繭檢定所（住）米子市立町四丁目川井嘉吉方
星野智（絲二三）（勤）名古屋市昭和區熱田東町東起、服部商店熱田工場（住）名古屋市昭和區河岸揚町一ノ一一大川方（訂正）
山木辰雄（絲二三）（應召）
神林浩三（紡四）（應召）
大橋富次郎（紡七）（應召）
桐本他喜男（紡九）（應召）
佐久間幸一（紡一〇）（應召）
小林忠十郎（紡一〇）（應召）
藤澤喜一郎（紡一一）（應召）
星田擊（紡一二）（勤）從前通リ（住）神戸市林田區寺池町二ノ二四四
飯田喜雄（紡一四）（住）南安曇郡溫村楡
藤松利八（紡一五）（勤）本校紡織科（住）上田市水道町土屋りやう方
佐藤佳良（紡一六）（勤）山梨縣北都留郡大月町、大月稅務署（住）大月町天神町小林福太郎方
掛川泰子（舊教）退會

叙任辭令

母校之部

十月二十三日
副手　田上忠義

十月二十六日
古平庄衞

臨時副手ヲ命ス
宮下丈夫

臨時副手ヲ命ス
蠶絲化學教室勤務ヲ命ス

臨時副手ヲ命ス
蠶絲化學教室勤務ヲ命ス

臨時副手ヲ命ス
絹紡織科勤務ヲ命ス

十月二十八日
藤松利八

舊職員之部

從五位勳六等　春日井新一郎
叙正五位（十月十五日）

卒業生之部

公立實業學校教諭　近藤正巳
陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル（十月一日）

地方農林技師　鹽見豊一
九級俸下賜（九月三十日）

地方農林技師　上原清夫
傳島縣農林技師ニ補ス（十月一日）
七級俸下賜（十月十一日）

農林技師　田口敏夫
滿洲國及關東州ヘ出張ヲ命ス（十月十四日）

正六位　矢澤茂登一
叙從五位（十月十五日）

公立實業學校教諭兼舍監　三橋宜夫
舍監加俸年額九拾六圓下賜（十月二十日）

地方農林技師　藤勝四郎
七級俸下賜（九月三十日）

投稿規定

內容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。

原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

原稿は開封し三錢切手（第四種百二十瓦）迄を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假名でお書き下さい。又文句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

匿名で掲載希望の場合も編輯部丈へは姓名をお明し下さい。然らざる時は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以內とし必ず白紙に墨書して下さい。

原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字丈書込まれ度い。

編輯室より

△戰事体制の現れとして綿花と羊毛の輸入が制限され十一月一日からは羊毛に必ず一定の割合の他繊維を混入する事を規定された。之は多少の苦痛はあつても實行せねばならぬ事は充分に合點されるがその代用繊維がステープル、フアイバーのみに限られて完全なる國產繊維である絹に何等關心せざる樣に見受けらるゝは不可思議とする處である。絹を羊毛其他と混紡混織する事と絹製品の消費を增大する事とは最も時宜に適したる方法と考へるものである。

△應召關係の記事は此の際可及的迅速に且つ詳細に報告したいのであるが書いていゝ事といけない事とがあつて仲々容易で無い。安全第一に少しでも危險と思ふ處は全部〇〇にすれば何んでも無いがそれでは報導の意味を無さない。禁止せられざる範圍內に於て能ふ限り詳細に書く處に苦心が存するのである。そのお蔭で警察へお百度詣りと云ふ譯である。

△應召諸氏の內先月號で學生中島健爾君の戰死と會員水谷清氏の戰傷を報じたが本月號に於て又會員山本金之助氏の戰傷と會員增田孝氏の戰死を御報告申上げねばならぬ。山本氏に對しては深甚なる感謝を捧げると共に一日も早く全治せられん事を神かけて祈り增田氏に對しては絕なる感激と深厚なる哀悼の意を表するものである。

△紺碧の空を想はせる高原の秋も本年はどうした事か雨許り續いて鬱陶しい日を送つた。それが二三日漸く快晴となつた是からは當分快晴は續くであらう。晴れると共に四方の山々には雪が見え木々の葉は大抵落ちて地面は落葉で覆はれ朝夕の挨拶に白い呼氣が見える樣になつた。炬燵は大抵の家で座つた樣だ。もうすつかり冬の粧ひである。

昭和十三年度蠶種案內

○交雜種
×浙　華仙江
×龍　華仙江
×國蠶歐十九號
×國蠶支一〇七號
×國蠶歐十六號
×國蠶支十六號

○原蠶種
國蠶歐十八號（本年度配布優良品）
分離白一號
國蠶支一〇六號（春期五粒定粒用）
其他一化二化共特撰品あり
病蠶無皆
優良品種、適地分場、設備完全

廣島縣御調郡奧村綾目八五
蠶種業　小川保
電話　市村局一一一番
振替（廣島）二四六番
（大阪）三〇七六三番
電報は市村局別便配達料不要

轉居御通知

謹啓時下秋冷之候愈御清適之段奉賀上候陳者私儀命により去る五月より十月迄內地研究員として上京遊學いたし居候處今般滿期無事再び歸校仕候間乍憚御放念被下度候尙今回住所を左記に移轉仕候間御通知申上候　敬具

昭和十二年十一月三日
上田蠶絲專門學校
山口定次郎
自宅　上田市金山町一七八